

かほくがた

とりもどそう！ 河北潟
泳げる湖、おいしい魚、安心して使える水

CONTENTS

河北潟の再汽水化に向けて	1p
河北潟の仲間たち・52 「コイ」	2p

生きものの元気米・市民参加型調査	3p
河北潟クリーン作戦2019の報告	4p
ご支援・ご寄付ありがとうございます	6p
こよみさん「生きものの元気米」おにぎり	7p
そのほかニュース	8p

河北潟の再汽水化に向けて

2019年度は、高木仁三郎市民科学基金の助成を受けて、河北潟の再汽水化に向けた基礎研究を進めます。特に今年度は、河北潟を再汽水化する上での課題の整理に取り組みます。

河北潟では、1963年から農地造成のための国営干拓事業が行われ、潟の面積が1/3になりました。また、防潮水門の建設により汽水湖から淡水湖に変化し、富栄養化や透明度の低下が問題となっています。これに対して自治体からは広域下水道整備が進められ、わずかな水質改善がみられたものの、環境基準には到達できておらず、広域下水土整備後は、河北潟の水質問題に対して行政からの有効な解決策は提案されていません。

河北潟湖沼研究所は、1990年代半ばから、河北潟の生物多様性保全には、干拓地での農業と野生生物の共

存と、潟と周辺エリアでの水辺の順応的管理が重要と考え、研究と活動に取り組んできました。その成果は、生きものの元気米の取り組みなどの農業の中での環境保全の推進や、協働による外来植物の除去活動と在来植物の保全活動、ゴミのない河北潟の実現などの成果を挙げてきました。しかし、当初に掲げた河北潟の水質の改善の課題は手つかずのままで、農家が農業用水として河北潟の水を利用することをためらうような状況となっています。水質を改善し、生物が豊かで利用可能な河北潟を取り戻すためには、現在の順応的管理による手法だけでは難しく、私たちは、流域の森や農地に支えられた汽水生態系の復活により、河北潟から豊かさを持続的に享受できる地域を目指すための取り組みが必要と考えました。取り組みの内容については、次号で詳しくご説明いたします。（高橋 久）